

西濃桃李高等学校 通信教育実施計画

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅠ	単位数	3 単位
対象学年	第 1 学年				
授業担当者	辻 綾子		山村 仁恵	高橋 恵子	
使用教科書	All Abroad English Communication I		副教材	ワークブック 東京書籍	
スクーリング	必要出席時間数	3 単位×4 =12 時間以上		スクーリングとレポートを両方合格 することで履修が認められる。	
レポート	必要提出枚数	3 単位×3 =9 枚			
期末試験	合格得点目標	平均点の半分 点以上		考査範囲のスクーリング受講とレポート提出が受験要件	

【科目の目標】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができる。	本文や会話などから概要や要点を正しく捉え、自分の考えを持つことができる。また、自分の考えや気持ちを文章にして表現することができる。	基本的な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどをまとめ、話したり書いたりして伝え合おうとしている。

【年間指導計画】 ※学習方法欄の○は週5週3、□は週1在宅・配当時間は週5生を基準とする。

月	指導単元・項目	学習方法			レポート (×切期日)	評価の観点			配当 時間
		スクーリング	レポート	試験		知	思	主	
4	Pre-Lesson1 My name is Ito	○				○	○	○	1
	Pre-Lesson2 I like Junk food	○	○□		4/28	○	○	○	4
5	L1 Breakfast around the world	○	○□		5/19	○	○	○	4
	L2 Australia' s cute quokkas	○	○□		6/2	○	○	○	4
6	L3 A train driver in Sanriku	○□	○□		6/16	○	○	○	4
	Lesson4 A miracle mirror	○	○□		6/30	○	○	○	4
7	Grammar	○□				○			1
						○	○	○	4
8	期末試験対策	○				○			2
9	前期期末試験			○□		○	○	○	
	Lesson5 Learning from the sea	○	○□		9/29	○	○	○	4
10	L6 A funny picture from the Edo period	○	○□		10/27	○	○	○	4
11	Lesson7 A diary of hope	○	○□		11/17	○	○	○	4
	Lesson8 A door to a new life	○	○□		12/1	○	○	○	4
12	Grammar	○				○			1
1	期末試験対策	○				○			2
2	後期期末試験(1,2年)			○□		○	○	○	1
	L9 Fighting plastic pollution	○				○	○	○	4
3	L10 Pigs from across the sea	○				○	○	○	4

西濃桃李高等学校 通信教育実施計画

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2 単位
対象学年	第 1 学年				
授業担当者	渡部 明美				
使用教科書	東京書籍 家庭基礎	副教材	使用しない		
スクーリング	必要出席時間数	2 単位 × 1 = 2 時間以上		スクーリングとレポートを両方合格 することで履修が認められる。	
レポート	必要提出枚数	2 単位 × 3 = 6 枚			
期末試験	合格得点目標	30 点以上		<small>考查範囲のスクーリング受講とレポート提出が受験要件</small>	

【科目の目標】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を養う。	様々な人と協働し、より良い社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活充実を図ろうとする実践的な態度を養う。

【年間指導計画】 ※学習方法欄の○は週5週3、□は週1在宅・配当時間は週5生を基準とする。

月	指導単元・項目	学習方法			レポート (×切期日)	評価の観点			配当 時間
		スクーリング	レポート	試験		知	思	主	
4	第1章 生涯を見通す 第2章 人生を作る	○	○□		No. 1 4/30	○	○	○	
5	第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共に生きる 第5章 共に生きる	○	○□		No. 2 5/31	○	○	○	
6	第6章 食生活をつくる	○	○□		No. 3 6/30	○	○	○	
7	前期の復習	○	○□			○	○	○	
8	前期期末対策								
9	前期期末試験 第7章衣生活をつくる	○	○□	○□	No. 4 9/29	○	○	○	
10	第8章 住生活をつくる	○	○□		No. 5 10/31	○	○	○	
11	第9章 経済生活を営む	○	○□		No. 6 11/30	○	○	○	
12	後期の復習	○	○□			○	○	○	
1	後期期末試験対策	○	○□			○	○	○	
2	後期期末試験 第10章 持続可能な生活を営む	○	○□	○□		○	○	○	
3	第11章 これからの生活を創造する 1年の総復習	○	○□			○	○	○	

西濃桃李高等学校 通信教育実施計画

教科	数 学	科目	数 学 A	単位数	2 単位
対象学年	第 1 学年				
授業担当者					
使用教科書	新 数 学 A 東京書籍	副教材	ニューファースト新数学A 東京書籍		
スクーリング	必要出席時間数	2 単位 × 1 = 2 時間以上	スクーリングとレポートを両方合格 することで履修が認められる。		
レポート	必要提出枚数	2 単位 × 3 = 6 枚			
期末試験	合格得点目標	偏差値の 半分以上	考查範囲のスクーリング受講とレポート提出が受験要件		

【科目の目標】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学は何千年もの年月を経て発展し、現在でも活発に研究され進化している。普段の生活の場面で、その数学の知識や技能を身に付ける能力を養う。	場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動を学び、世界共通の表し方と記法を身に付け、これらを用いて論証を進める能力を養う。	教科書の例や例題の内容を理解し、解法の書き方を覚え、それに沿って練習問題で自分の解答を作る能力を養い、学んだ事を人に説明する力を付ける。

【年間指導計画】 ※学習方法欄の○は週5週3、□は週1在宅・配当時間は週5生を基準とする。

月	指導単元・項目	学習方法			レポート (<input checked="" type="checkbox"/> 切期日)	評価の観点			配当 時間
		スクーリング	レポート	考查		知	思	主	
4月	確 率(1)場合の数 (2)順列と組合せ	○	○□		No. 1 4/27	○	○	○	6
5月	(3)事象と確率 (4)余事象の確率公式	○	○□		No. 2 5/25	○	○	○	6
6月	(5)独立試行・反復試行 (6)確率分布と期待値	○□	○□		No. 3 6/29	○	○	○	7
7月	図 形(1)平面図形と多角形 (2)基本的図形の作図	○□	○□			○	○	○	2
8月	前期期末考查対策授業	○	○□						2
9月	(3)基本的図形の作図	○	○□	前期期末考查	No. 4 9/14	○	○	○	6
10月	(4)三角形と比の性質 (5)三角形の外心と内心	○□	○□		No. 5 10/26	○	○	○	5
11月	(6)円周角の定理 (4)接弦定理と方巾の定理	○□	○□		No. 6 11/30	○	○	○	5
12月	空間図形(1)直線と平面の位置関係	○	○□			○	○	○	3
1月	(2)オイラーの多面体定理 人間活動(1)数や位置を表す理	○□				○	○	○	4
2月	学年末考查対策授業 (2)数の造りを調べる	○		学年末考查		○	○	○	6
3月	(3)長さや面積を測る (4)数学で遊ぶ	○				○	○	○	4

西濃桃李高等学校 通信教育実施計画

教科	数 学	科目	数 学 I	単位数	3 単位
対象学年	第 1 学年				
授業担当者					
使用教科書	新 数 学 I 東京書籍	副教材	ニューファースト新数学 I 東京書籍		
スクーリング	必要出席時間数	3 単位 × 1 = 3 時間以上	スクーリングとレポートを両方合格 することで履修が認められる。		
レポート	必要提出枚数	3 単位 × 3 = 9 枚			
期末試験	合格得点目標	偏差値の 半分以上	考查範囲のスクーリング受講とレポート提出が受験要件		

【科目の目標】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学は何千年もの年月を経て発展し、現在でも活発に研究され進化している。普段の生活の場面で、その数学の知識や技能を身に付ける能力を養う。	数と式、2次関数、三角比、データの分析、論理を学び、世界共通の表し方と記法を身に付け、これらを用いて論証を進める能力を養う。	教科書の例や例題の内容を理解し、解法の書き方を覚え、それに沿って練習問題で自分の解答を作る能力を養い、学んだ事を人に説明する力を付ける。

【年間指導計画】 ※学習方法欄の○は週5週3、□は週1在宅・配当時間は週5生を基準とする。

月	指導単元・項目	学習方法			レポート (<input checked="" type="checkbox"/> 切期日)	評価の観点			配当 時間
		スクーリング	レポート	考查		知	思	主	
4月	数の計算(1) 正の整数の四則演算 (3) 分数の四則演算	○	○□		No.1 4/18 No.2 5/02	○	○	○	9
5月	(4) 正負の数の四則演算 (5) 公倍数と公約数	○	○□		No.3 5/23	○	○	○	14
6月	数と式(1) 文字と式 (2) 面積計算	○□	○□		No.4 6/08	○	○	○	9
7月	(3) 2乗根の四則演算 (4) 有理数と無理数	○□	○□		No.5 7/11	○	○	○	4
8月	前期期末考查対策授業	○	○□						3
9月	(5) 1・2次方程式 (6) 1次不等式	○	○□	前期期末考查	No.6 9/13	○	○	○	8
10月	関 数(1) 1次関数とグラフ (2) 2次関数とグラフ	○□	○□		No.7 10/24	○	○	○	10
11月	(3) 2次関数の最大・最小 (4) 2次不等式	○□	○□		No.8 11/09	○	○	○	10
12月		○	○□		No.9 12/07	○	○	○	3
1月	三角比(1) 鋭角・鈍角の三角比 (2) 正弦定理と余弦定理	○□				○	○	○	8
2月	学年末考查対策授業 データ(1) データの分析	○		学年末考查		○	○	○	11
3月	(2) 四分位数と箱ひげ図 論 証(1) 命題の証明	○				○	○	○	6

西濃桃李高等学校 通信教育実施計画

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	単位
対象学年	第 1 学年					
授業担当者	安江 麻里					
使用教科書	東書「新編生物基礎」(生基 702)	副教材	ニューサポート新編生物基礎			
スクーリング	必要出席時間数	2 単位×4 = 8 時間以上	スクーリングとレポートを両方合格 することで履修が認められる。			
レポート	必要提出枚数	2 単位×3 = 6 枚				
期末試験	合格得点目標	20 点以上	考査範囲のスクーリング受講とレポート提出が受験要件			

【科目の目標】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察、実験などをもとに、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

【年間指導計画】 ※学習方法欄の○は週5週3、□は週1在宅・配当時間は週5生を基準とする。

月	指導単元・項目	学習方法			レポート (×切期日)	評価の観点			配当 時間
		スクーリング	レポート	試験		知	思	主	
4	1 編 生物の特徴 1 章 生物の多様性と共通性	○	○□		No.1	○	○	○	3
5	2 章 生物とエネルギー 2 編 遺伝子とそのはたらき 1 章 遺伝情報と DNA	○	○□		No.1 5/12 No.2	○	○	○	4 4
6	2 編 遺伝子とそのはたらき 2 章 遺伝情報とタンパク質の合成 3 編 ヒトの体の調節 1 章 ヒトの体を調節するしくみ(1~2 節 体内環境、神経系)	○□	○□		No.2 6/16 No.3	○	○	○	5 3
7	3 編 ヒトの体の調節 1 章 ヒトの体を調節するしくみ(3~4 節 内分泌、血糖濃度の調節)	○□	○□		No.3 7/14	○	○	○	4
8	試験対策								
9	前期期末試験 テスト直し 3 編 ヒトの体の調節 免疫のはたらき(1 節 免疫のしくみ)	○□	○□	○□		○	○	○	3
10	3 編 ヒトの体の調節 免疫のはたらき 2・3 節 免疫の応用、さまざまな疾患	○	○□		No.4 10/31	○	○	○	6
11	4 編 生物の多様性と生態系 1 章 植生と遷移	○□	○□		No.5 11/30	○	○	○	6
12	4 編 生物の多様性と生態系 2 章 生態系と生物の多様性 1 節 生態系における生物の多様性	○□	○□		No.6 12/15	○	○	○	4
1	2・3 節 生物間の関係、人為的かく乱) 試験対策	○□	○□			○	○	○	4 2
2	後期期末試験(1,2 年) テスト直し (4 節 保全) 結章 生物基礎と私たち	○□	○□	○□		○	○		2 5
3	一年間の総復習	○□	○□			○	○	○	4

西濃桃李高等学校 通信教育実施計画

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2 単位
対象学年	第 1 学年				
授業担当者					
使用教科書	新選 歴史総合 東書		副教材	使用しない	
スクーリング	必要出席時間数	2 単位×1	= 2 時間以上	スクーリングとレポートを両方合格 することで履修が認められる。	
レポート	必要提出枚数	2 単位×3	= 6 枚		
期末試験	合格得点目標	20	点以上	考査範囲のスクーリング受講とレポート提出が受験要件	

【科目の目標】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色、概念などを活用して多面的・多角的に考察したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

【年間指導計画】※学習方法欄の○は週5週3、□は週1在宅・配当時間は週5生を基準とする。

月	指導単元・項目	学習方法			レポート (×切期日)	評価の観点			配当 時間
		スクーリング	レポート	試験		知	思	主	
4	第2章 1節 近代化への問い	○	○□			○	○	○	2
5	2節 結び付く世界と日本の開国	○	○□		No. 1 5/31	○	○	○	3
6	3節 国民国家と明治維新	○□	○□		No. 2 6/30	○	○	○	4
7	第3章 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い	○□	○□		No. 3 7/13	○	○	○	2
8	試験対策								
9	前期期末試験 2節 第一次世界大戦と大衆社会 3節 経済危機と第二次世界大戦	○	○□	○□	No. 4 9/30	○	○	○	3
10	4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	○	○□		No. 5 10/31	○	○	○	4
11	第4章 1節 グローバル化への問い	○□	○□						4
12	2節 冷戦と世界経済	○□	○□		No. 6 12/14				2
1	後期期末試験(3年) 3節 世界秩序の変容と日本		○□			○	○	○	3
2	後期期末試験(1,2年) 4節 現代的な諸課題の形成と展望		○□	○□		○	○	○	3
3	一年間の総復習								2